

第2回 土橋自然観察教育林 連絡協議会 議事録

期 日：2014年12月2日（火） 19時00分～21時00分

場 所：厚沢部町図書館視聴覚室

出席者：中井文夫（教育委員会教育長）、北川広幸（事務局主幹）、石井淳平（社会教育係）、青柳秀和（社会教育係）、小森賢人（社会教育係）、水本絵夢（社会教育係）、協議会員3名

議事要点

- ・平成26年度土橋自然観察教育林関係事業報告について承認された。
- ・平成27年度土橋自然観察教育林関係事業計画について承認された。
- ・ヒノキアスナロ植栽地整備事業について、図面に特別母樹林や保安林の区域を追加する。

主な意見・要望

(1)平成26年度土橋自然観察教育林関係事業報告について

- ・教育林講座について、ヒバに関する講座の際には、ヒバの自然史に触れた論文内容なども含めて講演してほしい。

(2)平成27年度土橋自然観察教育林関係事業計画について

- ・教育林講座について、樹木見本林に関する講座の際には、植物園勤務をしていた森町の方にもお話をうかがってはどうか。
- ・木育イベントの開催の際に、教育手法の参考としてシュタイナー教育を実践されている函館市の方にもお話をうかがってはどうか。

(3)その他懸案事項について

- ・畑内川の流域住民等を対象に、畑内川の治水や土砂流出災害についての知見を深められるような活動（例：勉強会や観察会等で治水や災害を学ぶ機会を設けるなど）をしてほしい。

協議事項1 平成26年度土橋自然観察教育林関係事業報告

会員A：教育林講座で外部講師を呼べなかったのはなぜか。

水本：年度内の講座の企画ができなかったため。

会員B：ヒバの研究について林業試験場の方を招いて欲しいと要望を出したが、今回は代わりにコーディネーターがヒバの話をするということか。

水本：今年度はそのつもりであるが、来年度以降林業試験場の方を招いて講座を開くという事も考えていきたい。

会員B：コーディネーター講座の際には、林業試験場で北海道のヒバと東北のヒバのDNAを比較した研究報告が出されていたようなので、その情報も加えてほしい。

石井：研究員用のデータベースで公開されているということだと難しいかもしれない。

会員B：そういうテーマを含めて講座で話してみしてほしい。

会員C：まだ樹名板を設置する手伝いができればやりたい。いつまでにやるなどの見通しは立っているか。

水本：年度内には設置したい。

会員 A：他に押している事業はあるか。

石井：冬季に入って倒木が発生した場合の処理などがある。

会員 A：北海道新聞の「みなみ風」などで、観察会等の活動もとりあげてもらえるといい。

会員 B：観察会の報告書などは HP でも同じものがみられるか。

水本：みられるようにしている。

協議事項 2 平成 27 年度土橋自然観察教育林関係事業計画

会員 B：希少植物のモニタリング調査の途中経過について、こういった場で公開しないのか。

水本：今データとしては出せないが、個体数の大幅な変化はどの種でも見られなかった。また、盗掘跡もなかった。株ごとの開花数については、花つきが良かった年の次の年はあまり花がつかなくなるなどの傾向がややみられた。

会員 A：調査の積み重ねが生態を知るためにも重要だと思う。希少植物の専門家の人とはつながっているのか。

水本：つながっている。

会員 B：樹木見本林を歩くという教育林講座について、森町に植物園勤めだった方がいらっしゃるので、呼びしてもいいかもしれない。

会員 A：木育イベント開催事業について、大沼自然学校で毎月行っている森のようちえん体験に参加している。芋を掘って焚き火をしたりと、楽しい体験をしている。

中井：福祉課が担当している事業かもしれない。

会員 C：同じ様な教育手法として、函館にドイツ発祥のシュタイナー教育のノウハウを知っている人がいる。指導をあおいでもいいかもしれない。

会員 A：森のようちえん体験には、近所のおじいさんが来たりして、薪割りなどをやってくれる。近所で先生になってくれる人をさがしてもいいと思う。また、そのような体験を受けるために大沼に引っ越してくる人もいる。人を呼び寄せるような活動は大事だと思うので、ぜひやってみてほしい。

会員 B：ヒノキアスナロ植栽地整備事業について、記念植樹域の図が変わったか。

水本：現状把握のために測量を行った後の図。こちらが正確なものとなる。

会員 B：特別母樹林の範囲を記してほしい。

会員 C：植樹域で5月に行った現地協議会での議論は反映されるのか。

水本：そのつもりである。

会員 C：今後植樹域の樹木に手を入れていく場合には、その理由を明確にしておかなければならないと思う。将来の展望を決定する事は重要。

その他 懸案事項等自由討議

会員 B：土砂流出防備保安林はどの範囲になるかも地図で示してほしい。畑内川の治水に関して情報が足りないので、森がどうあるべきかの前提としての学習が必要。また以前の畑内川の災害についてなどの情報も不十分。

石井：工事に関しては、畑内川は大水を受けられる容量を確保するために底面を掘下げる工事と、その上流部での土砂が崩れないための工事を行ったという説明を受けてい

る。

会員 B：災害の原因についての情報を求めている。事業は終わってしまったが土砂流出測定をやっていた。予防的にそういった測定をやったりしておいてもいいと思う。土砂流出災害にもっと目を向けてほしい。

会員 C：砂防ダムをどうすべきかということも、流域に住む町民もいるので考えていくべき。住民の人が理解することは大事だと思う。

会員 A：畑内川の流域に住んでいるが、無関心だったことに気づいた。川について観察会などで学ぶ機会があってもいいと思う。